

令和元年度 第5回 庄内支部勉強会 活動報告  
「一症例検討会」 両側小脳梗塞を呈した症例（急性期～回復期～在宅）

日時：令和元年 10月23日（水）19：00～21：00

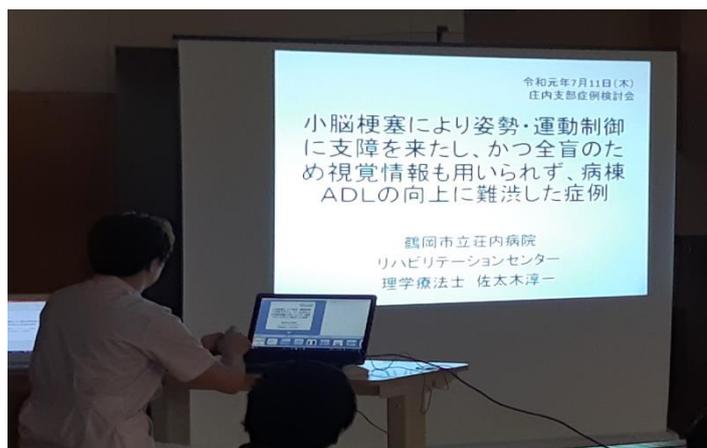
会場：鶴岡協立リハビリテーション病院

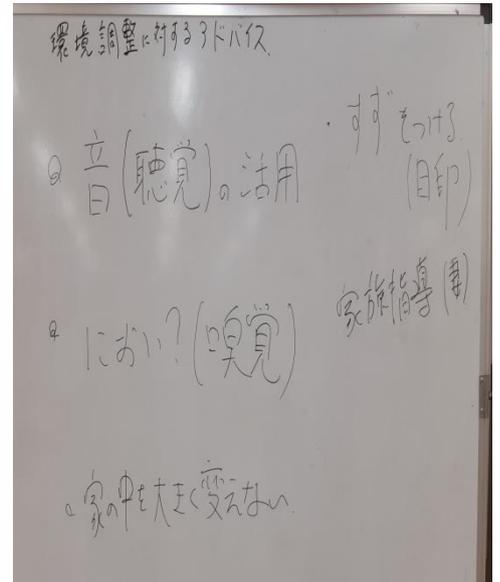
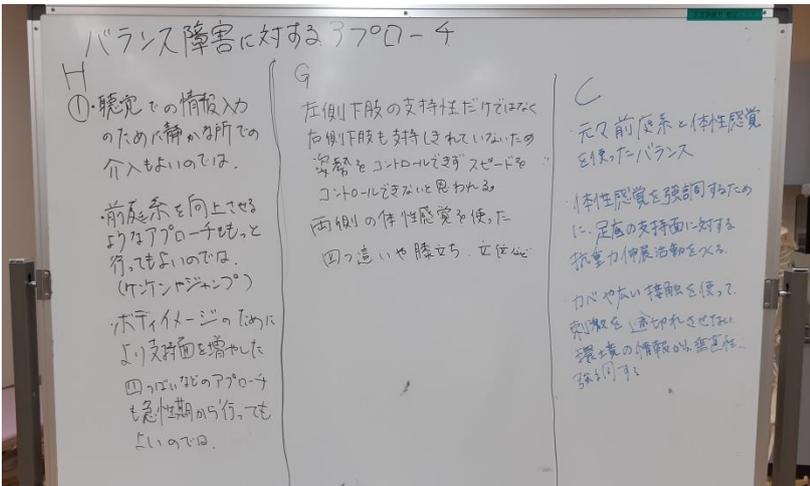
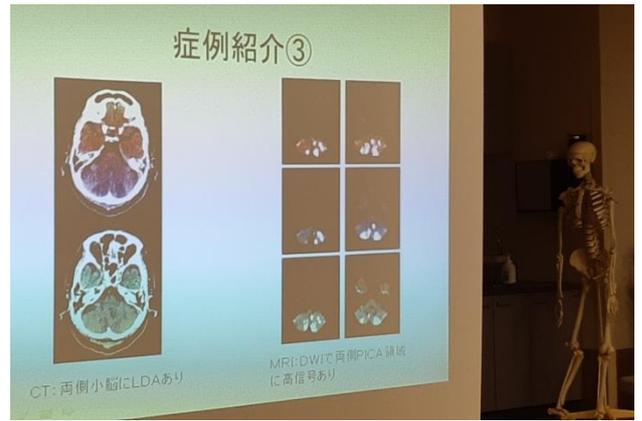
令和元年度庄内支部第2回、第5回で開催した一症例検討会ではそれぞれ45名、20名の会員の方々に参加して頂きました。各病期での身体状態や動作等の評価をもとに、様々な理学療法アプローチなどを佐太木淳さん、佐藤吉隆さん、高橋大介さん、富樫千恵さんの4名より発表して頂きました。グループディスカッションでは、様々な意見を出し合うだけでなく、全体での発表の際に具体的な治療方法などの提案・発表もあり発表者の先生方に限らず参加者の皆さんの今後の治療・評価の参考になったのではないかと思います。

今回の症例は全盲であり、各先生方は共通して自宅に戻ってからの生活を視野に入れた治療に取り組みつつ、自宅から鍼灸院までの移動、庭の剪定、草むしり、囲いの作業などが行えるよう、動作の獲得や環境整備（ガイドロープなどの設置など）の提案などを行っていました。病棟と在宅との連携やカンファレンスで抽出された課題、関連シートなどの活用もあったようです。知覚的フィードバックが困難であるものの自宅という慣れた環境下であり、体性感覚や記憶をもとに現在は歩行や作業を行っていますが70代という年齢を考えると今後認知面の低下や身体機能の低下も考慮しつつ環境整備や段差解消など必要であれば早めに対策を講じることで、今後も末永く在宅で安全に生活することが出来るのではないかと思います。

現状の評価だけでなく、訪問リハビリを終了した後の生活のことも考えられる広い視野を持てるよう、今後も勉強会を通して様々な意見交換やお互いの学びになる機会を作っていきたいと思います。今回、症例を報告していただいた先生方、参加された先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

（文責：中村千佳）





### 病棟との連携

#### 回復期-生活期連携カンファレンス

病棟名	担当	連携内容
回復期病棟	田中 太郎	患者の転院準備
生活期病棟	佐藤 花子	患者の生活期ケア
リハビリ病棟	鈴木 一郎	患者のリハビリテーション
看護病棟	高橋 美咲	患者の看護ケア
医師病棟	山田 健一	患者の医療ケア
薬剤師	中村 由美	患者の薬剤管理
理学療法士	渡辺 誠	患者の理学療法
作業療法士	小林 真由美	患者の作業療法
言語療法士	藤田 大輔	患者の言語療法
栄養士	松本 千恵	患者の栄養管理
社会福祉士	伊藤 拓也	患者の社会福祉
介護福祉士	清水 優子	患者の介護福祉
その他	山崎 隆夫	患者のその他ケア

- ## アプローチ
- 歩行**
    - ・独歩、T字杖：監視、声掛け誘導
    - ・広い歩き：支持点を参考にしながらの物品の運搬
    - ・応用動作：多方向への移動、置き動作、段差昇降を含めた歩行など
  - 前庭系の強化、バランストレーニング**
    - ・ジャンプ、平行棒歩き、ランジ、四股、階段昇降
  - 持久カトレーニング**
    - ・ニューステップ、エルゴメーター

